

田 尻 遺 跡

—一般府道新家田尻線歩道設置工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

田尻町教育委員会



田 尻 遺 跡

—一般府道新家田尻線歩道設置工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

田尻町教育委員会

序 文

本書で報告いたします田尻遺跡は、泉南郡田尻町の中央部に位置しています。このたび府道新家田尻線歩道設置工事に伴い、平成19年度から21年度にかけて、本府教育委員会と田尻町教育委員会で埋蔵文化財の共同調査を実施し、本報告書を刊行するに至りました。

これまで田尻遺跡では、弥生時代の溝や土器をはじめ、古代から近世にかけての遺構・遺物が発見されていて、泉州南部の歴史を考える上で重要な遺跡であることが知られていました。このたびの発掘調査においても、古墳時代とみられる溝をはじめ、從来の遺跡内容を追認する発見がありました。

改めて言うまでもなく、埋蔵文化財は先人たちが残した貴重な歴史遺産であり、それを後世の人々に伝えていく使命を現代人は担っています。そのために、私どもはその重要性を深く認識し、広く周知するとともに、再検証が難しい発掘調査にあたっては細心の注意を払いつつ精緻に行う必要があります。今回、当遺跡に関して豊富な調査経験と知識を有している田尻町教育委員会と共同調査を実施できたことは、文化財保護の観点からも意義深いことと考えます。

調査にあたりましては、関係各位から多大なご指導、ご助力をいただき、厚く感謝いたしております。今後とも文化財保護行政にいっそうのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 野口 雅昭

序 文

大阪府の南部に位置する田尻町は和歌山と大阪を結ぶ交通の要衝として、発展してきました。このため、町内には数多くの文化財が残されています。

平成5年に泉州沖合に関西国際空港が開港し、空港へのアクセス整備により、近年、田尻町も開発の波がおよせてきています。開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に埋蔵文化財は開発と直接に結びつく大きな問題です。

埋蔵文化財（遺物・遺構）を包蔵している遺跡では、埋蔵文化財そのものが直接に私達の目に触れるることは、ほとんどありません。なぜなら遺跡の地中で長い年月の間、遺構や遺物などの埋蔵文化財は保存されてきたからです。遺跡には、先人達の大切なメッセージが埋蔵文化財として託されています。そのメッセージを現在の住民、更には未来の住民に伝えてゆかなければなりません。

本書は、平成19年度から21年度に大阪府教育委員会と田尻町教育委員会が共同で実施した府道新家田尻線の歩道設置工事に伴う田尻遺跡の発掘調査の成果を収録しています。この地域の歴史像をさらに豊かにするための資料として活用していただければ幸いです。

成果を報告するにあたり、調査にご協力いただいた地元の方々、大阪府岸和田土木事務所、大阪府教育委員会並びに関係各位にお礼申し上げるとともに、今後とも本町の文化財保護行政にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

田尻町教育委員会
教育長 二澤 隆史

例　言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が大阪府都市整備部より依頼を受け、田尻町教育委員会と共同して実施した田尻町吉見所在田尻遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地調査は、田尻町教育委員会学事課主幹中野篤史・野口礼、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ主査橋本高明・同三木弘が担当し、平成19年9月から平成21年2月、平成21年2月から3月、平成21年8月から9月に実施した。遺物整理は田尻町教育委員会において平成20・21年度に実施した。大阪府教育委員会では、調査管理グループ総括主査宮野淳一・主査三宅正浩・副主査藤田道子が担当した。
3. 本調査の調査番号は、平成19年度は07047、平成20年度は08034、平成21年度は09026である。
4. 出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
5. 出土遺物および調査で作成した記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
6. 本書の執筆は中野・野口・三木が行い、編集は中野が担当した。
7. 発掘調査・遺物整理および本書の作成に要した経費は、大阪府都市整備部が負担した。
8. 本報告書は300部作成し、一部あたりの単価は420円である。

本　文　目　次

序文

例言

目次

第1章 位置と環境.....	1
第2章 田尻遺跡と周辺遺跡の概要.....	2
第3章 調査の成果.....	7
第4章 まとめ.....	20

挿　図　目　次

図1 田尻町（田尻遺跡）位置図	1
図2 微地形解析図	1
図3 田尻遺跡とその周辺の遺跡地図 1/20,000	2
図4 調査区分図 (1/4,000)	8

図5 調査区座標図 (1/4,000).....	8
図6 遺構全体図その1	9
図7 遺構全体図その2	11
図8 07047区北部府道西側遺構平面図	13
図9 07047区北部府道東側遺構平面図	14
図10 07047区遺物その1	15
図11 07047区遺物その2	16
図12 07047区遺物その3	16
図13 08034区 S D19大溝平面図 (S=1/200)、土層断面図 (縦S=1/100、横S=1/200)	17
図14 09026区中部府道東側遺構平面図	18
図15 08034区、09026区遺物.....	19
図16 田尻遺跡の調査カ所と大溝検出地点図.....	20

図 版 目 次

図版1 平成19年度遺構	07047区北部（府道敷西側）土坑・井戸（北側から） 07047区北部（府道敷西側）井戸断面（東側から）
図版2 平成19年度遺構	07047区北部（府道敷西側）土坑（南側から） 07047区北部（府道敷東側）土坑・溝（南側から）
図版3 平成19年度遺構	07047区中部（府道敷西側）溝 07047区中部（府道敷東側）土坑・溝
図版4 平成20年度遺構	08034区中部（府道敷西側）大溝（北側から） 08034区中部（府道敷西側）大溝（東側から）
図版5 平成21年度遺構	09026区中部（府道敷東側）スキ溝（南側から） 09026区中部（府道敷東側）溝（南側から）
図版6 平成19年度遺物	07047区出土遺物その1 07047区出土遺物その2
図版7 平成19・20・21年度遺物	07047区出土遺物その3 08034区・09026区出土遺物
図版8 平成19・20・21年度遺物	石器・銭（オモテ） 石器・銭（ウラ）

第1章 位置と環境

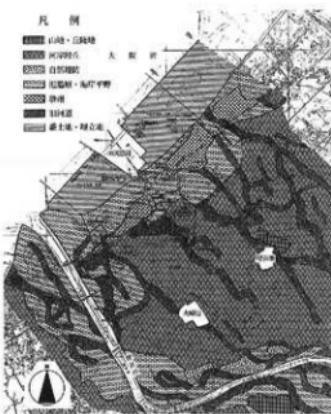
田尻町は大阪府の南西部、大阪湾岸線の南部に位置する。北東から南西にかけては泉佐野市、南西は泉南市に接し、北西は大阪湾に面している。町域の中央部を田尻川が、泉南市境を樺井川が流れている。町内を海岸線に並行して旧街道（孝子越街道）が通り、それよりやや内陸部を南海電鉄南海本線、府道堺阪南線（旧国道26号線）、現在の国道26号線が通る大阪と和歌山を結ぶ基幹交通の要衝となっている。町を形成している地区は旧来の嘉祥寺・吉見地区と埋立地のりんくうタウン・関西国際空港島の4地区から成り立っている。面積は4.77平方キロメートルの小さな町である。

平成12年度に田尻町教育委員会が実施した分布調査時の微地形解析によると町域の大部分は低位段丘に立地している。上流側からは河岸段丘として追跡することができるが、海岸付近で海岸平野に収斂しているため明瞭なものとはなっていない。旧街道沿いで、吉見及び嘉祥寺の旧集落が分布する部分は砂州となっていて、周囲より一段高くなっている。吉見では春日神社や田尻歴史館付近で比高差が最大となっている。嘉祥寺では吉見ほど明瞭な比高をもつ部分は少ないが、北東よりもやや高くなっている。砂州の前面（北西側）から旧海岸線までの間は海岸平野となっている。

町域内外とも、段丘や氾濫原中に旧河道がいくつか見られる。これらは周囲に比べわずかに低いことや条里が不規則に乱れていることから推測されるものであり、これらは樺井川の氾濫等により河岸段丘上を水が流れた際に形成されたものがほとんどと考えられる。



図1 田尻町（田尻遺跡）位置図



『田尻町内遺跡群詳細分布調査概要』

図2 微地形解析図

第2章 田尻遺跡と周辺遺跡の概要

今回調査を実施した田尻遺跡の周囲には夫婦池遺跡や船岡山遺跡ほか多くの遺跡がみられる。各遺跡の概要について遺跡ごとに記す。

羽倉崎東遺跡

泉佐野市教育委員会の昭和61年度の試掘調査により新たに発見届けが提出された遺跡で、性格や時期については不明な点が多い。同市による98-04区調査時の湧き水と堆積状況から、中世以前はラグーンが続いていること、集落などは形成されていなかったと判断されている。しかし、同市調査の92-01区からは中世雑器群が多量に出土し、生活雑器の廃棄の場としての可能性がうかがえ、94-02区からは自然流路、落ち込み、粘土採掘坑の可能性がある土坑が検出されている。

また、同市による05-01区調査からは中世末期～近世の粘土採掘坑と考えられる土坑が検出され、幅広い年代の遺物も出土した。

羽倉崎遺跡

田尻町の北東部、主に泉佐野市に広がる標高3m～6mに位置する古墳時代の遺物散布地である。古くに古代製塩土器が出土したとの記録があり、泉佐野市教育委員会による発掘調査が数回

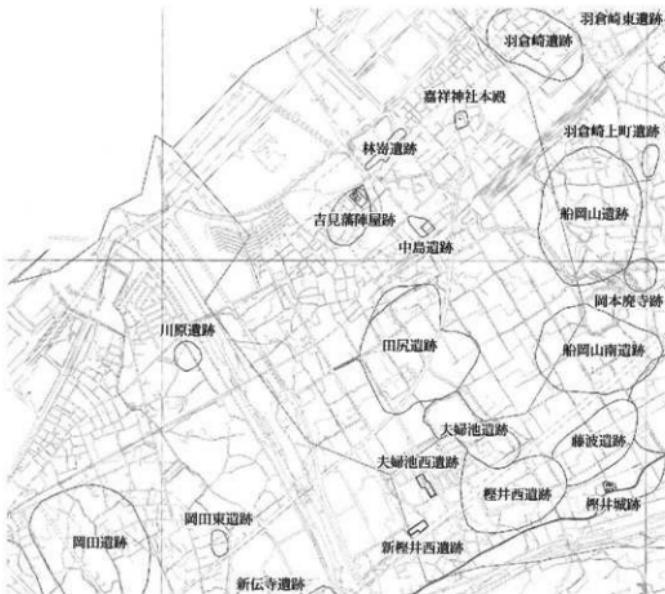


図3 田尻遺跡とその周辺の遺跡地図 1/20,000

行われ90-01区の調査で江戸時代後半の陶器が出土している。

田尻町教育委員会による平成16年の調査で、耕作に伴う溝、水溜遺構、河川跡を検出している。包含層より土師器、瓦器が出土している。

羽倉崎上町遺跡

当遺跡は昭和62年度に泉佐野市による試掘調査で発見され、溝1条の検出と弥生土器の出土を確認したが、以降の調査が行われていないため、性格、時期は不明である。

船岡山遺跡

船岡山遺跡は、田尻町と泉佐野市にまたがる、櫻井川の右岸に沿う沖積段丘上に位置する縄文時代晚期から弥生時代前期にかけての遺物包含層がある遺跡である。これまでに大阪府教育委員会、泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝、土坑、柱穴が検出されている。

元は船岡山A～C地点に分かれていた遺跡であるが、調査を進めていく中で1つの遺跡であると判明し、昭和61年に3つの地点が集約され、船岡山遺跡となった。

主に、縄文時代後期～弥生時代の集落跡に位置づけでき、泉佐野市による55-02区の調査で庄内式甕や布留式甕、製塙土器、高杯形土器等を伴った竪穴住居1棟、土坑、溝を、84-03区調査時に縄文時代晚期船橋式土器、弥生時代前期土器を伴った掘立柱建物野倉庫1棟、土坑、溝を、91-03区調査で弥生時代後期～古墳時代前期の掘立柱建物倉庫1棟をそれぞれ検出し、遺物は石器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。また、同市の04-03区で遺構は出ていないが中世段階と思われる土師質罐片、近世の土坑や溝、落ち込み等が数箇所の調査区から検出されており、各時代にわたり人々の生活がうかがえる。同市の03-01区調査で溝等とともに遺構・遺物の密度から縁辺部が判明した。

岡本庵寺跡

当遺跡は近世の社寺跡であり、泉佐野市による85-01区調査時に18世紀代の陶磁器、00-01区調査で近世後半の遺物が出土している。しかし、同市による97-01区の調査では、中世後半に位置づけできる溝状の落ち込みと、古墳時代の須恵器等が出土しているため、周囲の古墳時代集落からの客土か、未検出の集落の可能性がうかがえる。

船岡山南遺跡

田尻町の南東部、泉佐野市に広がる標高8m～10mに位置する弥生時代～中世にかけての遺物散布地である。泉佐野市による88-01区調査で遺物が若干数と、94-01区で中世の土師器、瓦器等が出土しているが、遺構は検出されていない。

藤波遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高10m～12mに位置する中世の遺物散布地である。平成20年度泉佐野市による発掘調査では溝、ピットが検出され、土師器、瓦器、陶磁器が出土している。

櫻井城跡

櫻井古戦場に存在したとされる3箇所の中世城館の1つである。

泉佐野市による87-01・02区調査で近世遺物包含層から多量の近世陶磁器、98-01区調査で、使用法などは不明であるが近世後半と考えられる埋甕が出土している。また、同市による99-01区の調査では、中世に位置づけられる柱穴や小溝、落ち込み等が検出され、中世遺物包含層と見られる多量の中世遺物が出土しており、時期が合致する城館との関係が注目される。さらに、同市による平成4年度の府道の歩道設置工事に伴う発掘調査と05-01区調査で弥生時代後期～庄内式併行期に埋没したと思われる自然流路、古墳時代後期の溝、土坑等が検出されている。

櫻井西遺跡

田尻町の南部、主に泉佐野市に広がる標高10m～11mに位置する。昭和60年度の発掘調査で新たに発見された遺跡で、弥生時代の方形周溝墓群と古墳時代～中世の集落跡である。泉佐野市による85-01区調査から弥生時代の縦柱建物、方形周溝墓、ピット等が検出されており、特に同市の95-01区調査では、古墳時代中期の住居3棟と掘立柱建物2棟、土坑2基、溝、堀、弥生時代の方形周溝墓群（6基）、さらに1号住居跡からはカマドや貯蔵穴などが検出され、当時の生活を知る重要な資料となった。平成9年度同市の調査では、土坑から特殊な場所でしか出土しないとされる韓式系土器が出土し、当該地が祭祀のために使用されていた可能性もうかがえる。99-01区の調査では中世の溝が検出され、屋敷の区画溝と考えられている。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などが出土しており、弥生時代～近世の幅広い時期のものが確認されている。

新櫻井西遺跡

平成17年度に泉佐野市教育委員会による試掘調査05-01区によって発見された遺跡である。地山直上の包含層より完形の土師壺が3枚重なって出土している。そのほかに落ち込みの覆土から須恵器の破片が出土している。また、07-01区の調査でも古墳時代の土師器が出土している。古墳時代から中世の集落跡。

夫婦池遺跡

夫婦池遺跡は、田尻町と泉佐野市にまたがる、標高7m～9mにかけて位置する弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。泉佐野市による昭和61年の調査では、中世廃絶の溝1条、江戸時代後半に廃絶したと思われる井戸、5世紀代の須恵器を含むピット、中世から現代にいたるスキ溝が検出されている。その他、土師器、瓦器、須恵器、陶磁器等の遺物が遺物包含層から出土している。

夫婦池西遺跡

平成19年度泉佐野市試掘調査により新たに発見された遺跡で、古墳時代～中世の集落跡であるとされている。同市による07-01区調査で耕作に関連すると思われる古墳時代後期～中世の溝4条と、近世後半～近代前半の井戸が検出されている。また、遺構内から古墳時代後期の遺物、須恵器、遺構検出時には石鎚が出土している。

岡田東遺跡

泉南市による平成3年度試掘調査で新たに発見された遺跡である。同市91-01区調査より、堅穴式住居3棟と、庇を持つ大きな建物を含む掘立柱建物5棟、土坑数基、多数のピットを検出している。大きな建物1棟を除く7棟の時期は大きく違うものではなく、切り合いで大きな建物1棟が出現している。遺物から7世紀初頭以降のものが見られないため、建物群8棟の時期は6世紀末～7世紀初頭のものであるとされている。

岡田遺跡

岡田遺跡は中世の集落跡とされている。泉南市により89-01区が初めて発掘調査が行われ、中世の遺物包含層を確認した。以降、同市の調査では中・近世を中心とした遺構・遺物が確認されており、粘土採掘坑と思われる土坑、ピット、耕作に伴うであろう落ち込み、溝、井戸などが多数検出されている。特に、同市による91-01区の浄泉寺境内からは中世～近世の瓦、97-02区調査では、集落や寺域を区画するためと思われる中世の溝2条、土坑墓の可能性がある中世～近世の上坑が検出されている。また、同市98-01区調査において、遺構・遺物等は確認されなかったが、周辺調査からは出ない中世以前の堆積を示す土層が見られ、05-02区調査では中世以前のものである可能性のある溝が検出された。いずれも当遺跡の未確認部分を示唆する重要な資料として注目される。

新伝寺遺跡

奈良・平安時代の集落跡で、泉南市による91-01区・04-01区調査それぞれで掘立柱建物が検出されている。91-01区では、他に多数のピット、真蛸壙焼成土坑を含む土坑29基、区画溝を含む溝6条が検出され、13世紀中頃～後半の集落跡であると考えられている。遺物は石鎌、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器等が出土している。04-01区は他に中世以降のピット多数、土坑2基、落ち込みが検出されている。出土遺物は一部7世紀中頃のものもあり、明確なまとまりは持たないが、概して8世紀中頃～後半に位置づけられている。周辺遺跡である海会寺跡と時期が合致するため、関係する古代集落の可能性がうかがえる。

嘉祥神社本殿

桃山建築様式を伝える江戸時代初期の神社建築物。大阪府指定文化財。

吉見藩陣屋跡

田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土採掘坑などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。なお、遺跡内には大阪府指定文化財の田尻歴史館（旧谷口家吉見別邸）がある。

林寄遺跡

田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高2m～4mに位置する近世墓地跡である。近代に移転された。これまでの調査により土坑、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器の

ほか弥生土器、土師器が出土している。

中島遺跡

田尻町の中央部に所在する標高3.5～4mに位置する中世～近世の集落跡である。平成15年度に実施した試掘調査により新規に発見した。土坑、小穴、柱穴等の遺構が検出されている。遺物は瓦器、土師器が出土している。

田尻遺跡

田尻遺跡は、標高5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。昭和60年の大阪府教育委員会の調査では弥生時代後期、古墳時代後期から奈良時代、中世の3時期の遺構・遺物が確認されている。弥生時代後期の溝が検出されている。昭和62年の調査では中世以降の農耕に伴う溝や近世以降の土坑が検出されている。平成6年の調査では中世に属する溝、土坑やピットが確認されている。

(参考文献)	書名	編集・発行	発行年
『泉佐野市所在遺跡発掘調査概要Ⅰ～淡路遺跡・三軒屋遺跡・船岡山B地点遺跡～』	泉佐野市教育委員会		1981.3
『昭和60年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要VI』	泉佐野市教育委員会		1986.3
『泉佐野市埋蔵文化財調査報告書 夫婦池遺跡発掘調査報告書一市営住宅建築工事に伴う調査～』	泉佐野市教育委員会		1986.3
『昭和61年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要VII』	泉佐野市教育委員会		1987.3
『昭和62年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要VIII』	泉佐野市教育委員会		1988.3
『昭和63年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要IX』	泉佐野市教育委員会		1989.3
『平成2年度 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		1991.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成6年度』	泉佐野市教育委員会		1995.3
『第22号 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		1996.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成9年度』	泉佐野市教育委員会		1998.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成10年度』	泉佐野市教育委員会		1999.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成11年度』	泉佐野市教育委員会		2000.3
『第40号 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		2000.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成12年度』	泉佐野市教育委員会		2001.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成15年度』	泉佐野市教育委員会		2004.3
『第49号 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		2006.1
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成17年度』	泉佐野市教育委員会		2006.3
『第56号 泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要』	泉佐野市教育委員会		2008.3
『泉佐野市埋蔵文化財調査報告書65 夫婦池西遺跡07-1区の調査』	泉佐野市教育委員会		2008.3
『泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成19年度』	泉佐野市教育委員会		2008.3
『泉南市遺跡群発掘調査報告書Ⅶ 泉南市文化財調査報告書 第二十一集』	泉南市教育委員会		1990.3

「泉南市遺跡群発掘調査報告書以 泉南市文化財調査報告書 第二十三集」	泉南市教育委員会	1982. 3
「泉南市遺跡群発掘調査報告書X 泉南市文化財調査報告書 第二十四集」	泉南市教育委員会	1993. 3
「泉南市遺跡群発掘調査報告書XV 泉南市文化財調査報告書 第二十一集」	泉南市教育委員会	1998. 3
「泉南市遺跡群発掘調査報告書XVII 泉南市文化財調査報告書 第二十三集」	泉南市教育委員会	2000. 3
「新伝寺遺跡91-1区・頓代遺跡03-3区発掘調査報告書 泉南市文化財調査報告書 第43集」	泉南市教育委員会	2004. 3
「泉南市遺跡群発掘調査報告書X-XII 泉南市文化財調査報告書 第四十四集」	泉南市教育委員会	2005. 3
「泉南市遺跡群発掘調査報告書XX-XI 泉南市文化財調査報告書 第四十六集」	泉南市教育委員会	2006. 3
「大阪府文化財調査概要 1984年度」所収「田山遺跡発掘調査概要 付章 田尻遺跡の調査」	大阪府教育委員会	1985. 3
「昭和62年度 田尻遺跡・船岡山遺跡発掘調査概要」	大阪府教育委員会	1988. 3
「泉南都遺跡群発掘調査概要、III」	大阪府教育委員会	1993. 3
「田尻町遺跡発掘調査概要」	田尻町教育委員会	1994. 7
「田尻町内遺跡群発掘調査概要1」	田尻町教育委員会	2000. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要2」	田尻町教育委員会	2001. 3
「田尻町内遺跡詳細分布調査概要」	田尻町教育委員会	2001. 3
「平成12年度 田尻遺跡発掘調査概要」	田尻町教育委員会	2001. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要3」	田尻町教育委員会	2002. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要4」	田尻町教育委員会	2003. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要5」	田尻町教育委員会	2004. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要6」	田尻町教育委員会	2005. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要7」	田尻町教育委員会	2006. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要8」	田尻町教育委員会	2007. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要9」	田尻町教育委員会	2008. 3
「田尻町内遺跡群発掘調査概要10」	田尻町教育委員会	2009. 3

第3章 調査の成果

1 調査の経緯と経過

一般府道新家田尻線のうち、南海本線吉見ノ里駅と府道63号との間で歩道設置工事が実施されることとなった。工事箇所の大半が周知の埋蔵文化財包蔵地である田尻遺跡の範囲内にあたることから、文化財保護課と都市整備部交通道路室交通対策課との間で埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、平成18年度に確認調査を実施し、遺跡の広がり、遺構・遺物の存在状況および調査



図4 調査区区分図(1/4,000)

深度の把握を行った。

確認調査は平成18年7月に、事業予定箇所の空間地に一辺約2mの方形トレーンチ6箇所を設定して実施した。その結果、遺跡範囲外においても遺物の出土があり、遺跡西端を40m拡大するとともに、遺跡範囲内に該当する工事部分について発掘調査を行うこととした。

発掘調査は平成19年度から、工事実施予定に沿って逐次行うこととした。また調査にあたり、当該遺跡の調査実績が豊富な田尻町教育委員会と協議を行い、大阪府教育委員会と田尻町教育委員会による共同調査として発掘調査から報告書刊行までを実施することとし、平成19年8月6日付けで「田尻遺跡発掘調査に関する協定書」を両教育委員会間で締結した。

発掘調査は平成19年9月から着手した。平成19年度の調査は9月から平成20年3月まで、平成20年度が平成21年2月から3月、平成21年度が8月から9月に実施した。

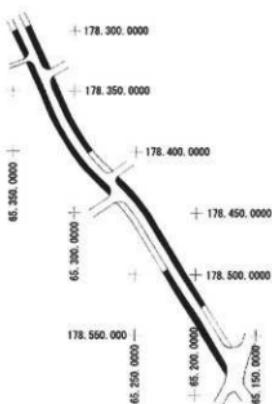


図5 調査区座標図 (1/4,000)

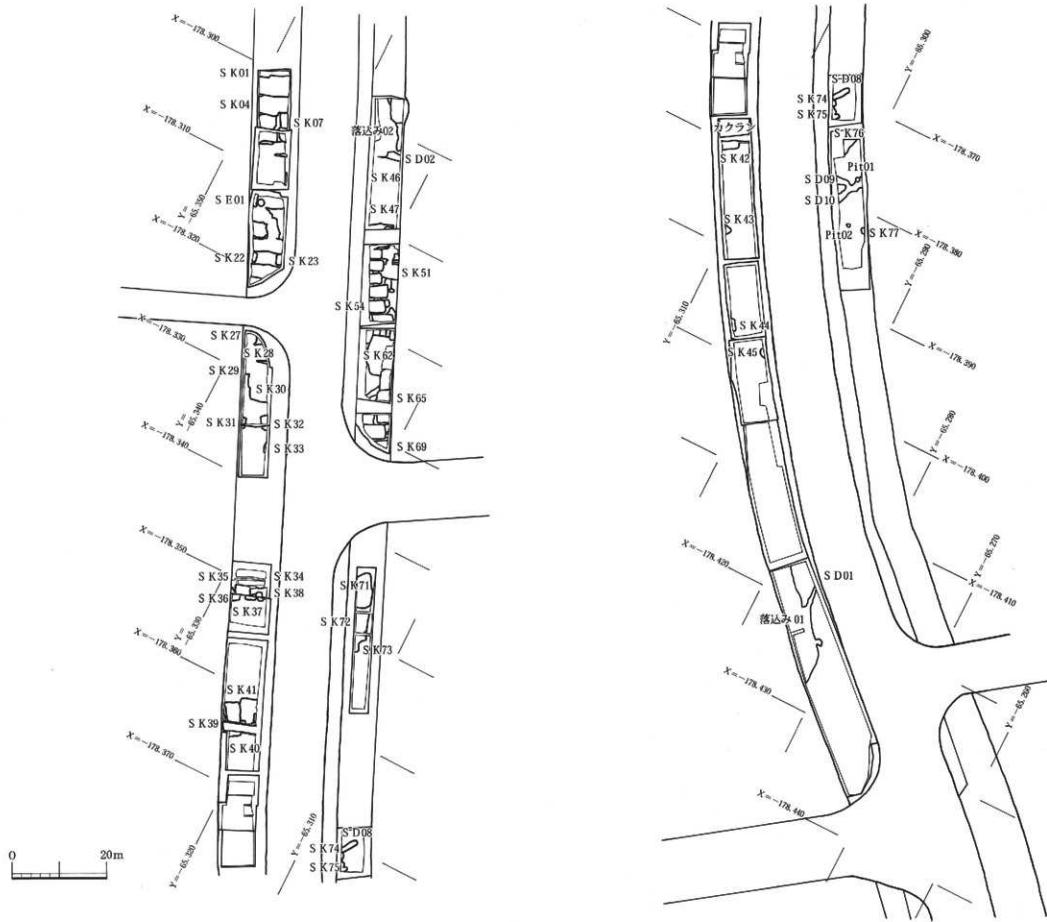


図6 遺構全体図その1

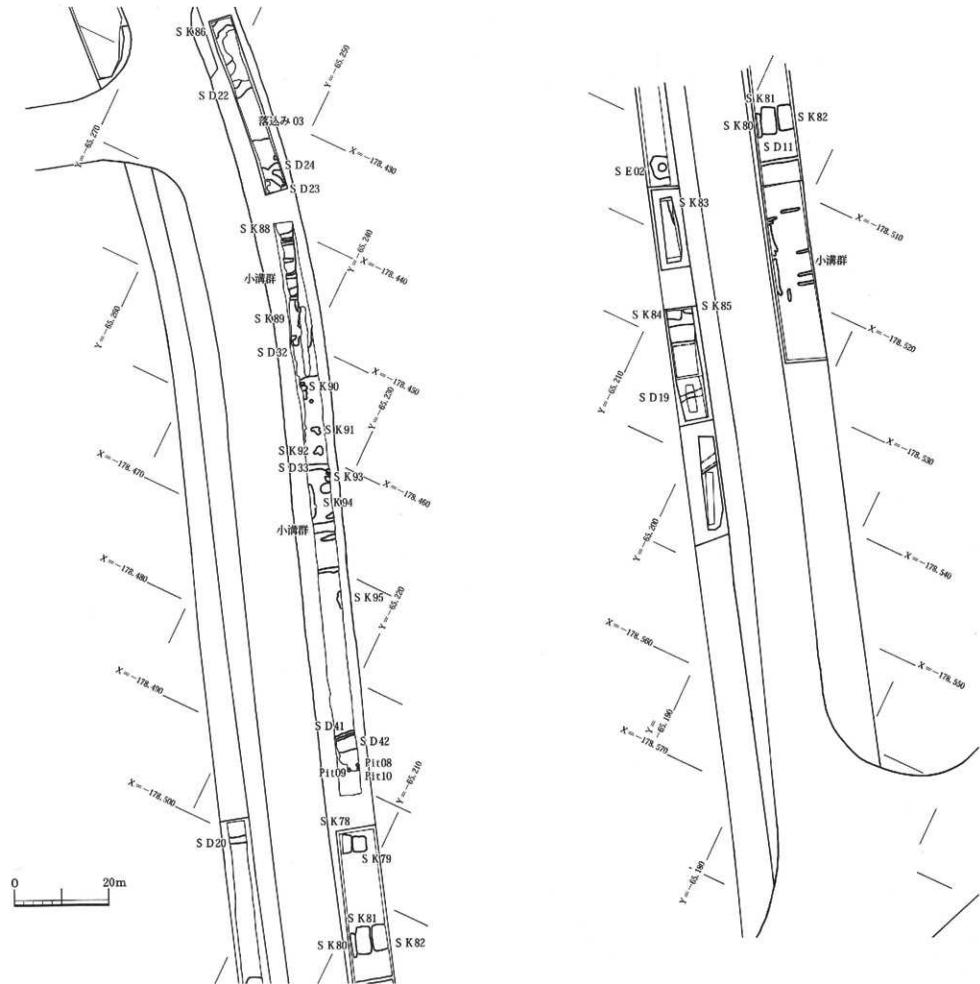


図7 遺構全体図その2

2 調査の成果

調査は工事の計画に合わせて平成19年度の調査区を07047区、平成20年度の調査を08034区、平成21年度の調査を09026区として調査面積は合計1,533m²である。なお、平成19年度調査の07047区は工事の進捗状況に合わせて3期に分割して実施している。

調査地は基本的には南東から北西方向へ、山側から海岸線へと緩やかに標高が低くなっている地形である。全体の基本的な層序は、上層から盛土、耕作土、その下に約20cmの厚みで土師器・瓦器・陶磁器を含む灰褐色系砂質土の遺物包含層、さらに5~10cmの厚みで土師器・須恵器を含む灰色系粘質土の遺物包含層、地山（暗灰黄色粘質土層）の順に堆積する。

07047区調査の結果

平成19年度に実施した調査区である。田尻遺跡の北部、中部、南部の3区域を調査している。調査区北部は南海電鉄吉見ノ里駅に近く、宅地になっていたところが多い。前回の大坂府教育委

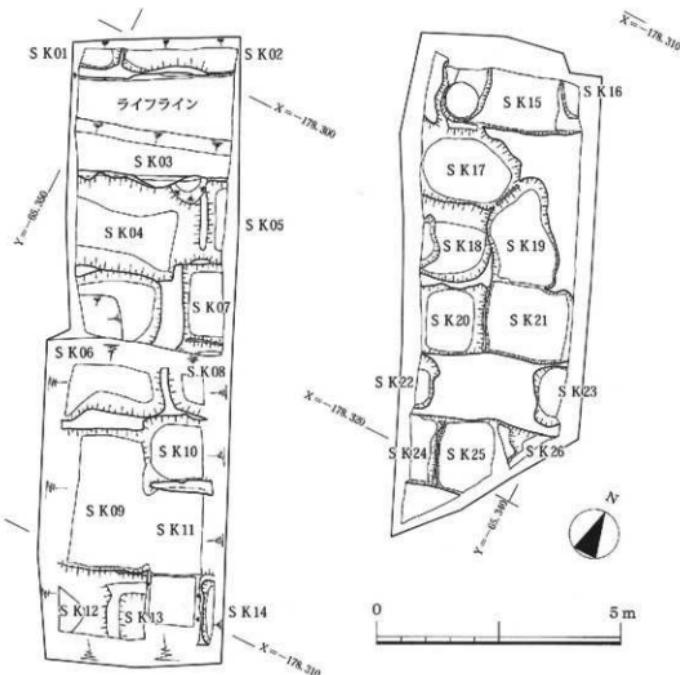


図8 07047区北部府道西側遺構平面図

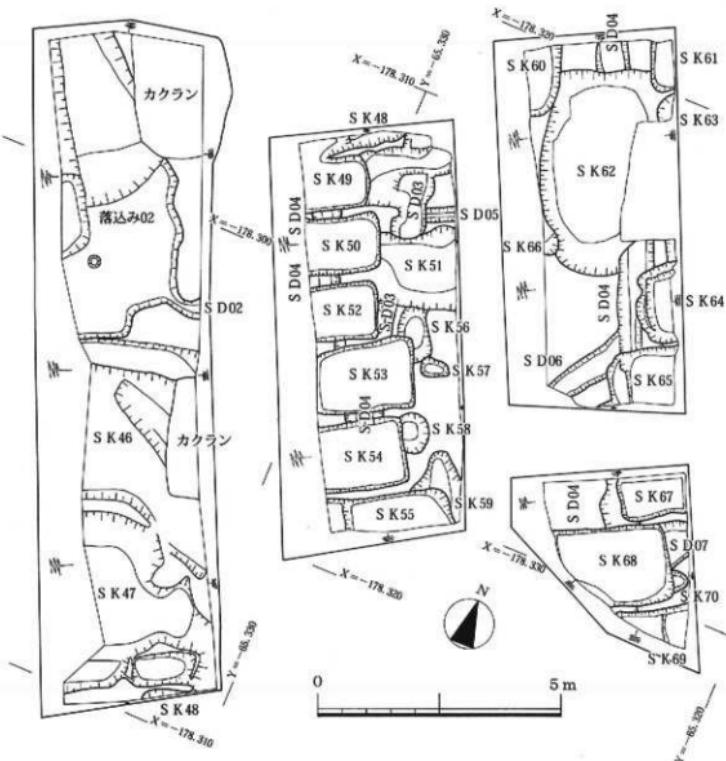


図9 07047区北部府道東側遺構平面図

員会の試掘調査により田尻遺跡の範囲拡大がなされた箇所を含んでいる。調査は車両や人の出入りがあるため、小規模な面積を調査しては次へ進むという方法で掘削を進めた。

07047区の遺構

07047区は調査地の北部、中部、南部と3箇所にわけて調査を実施した。調査区内で検出した遺構は、中世以前の時代に遡る溝、近世～近代の土坑（粘土採掘坑）多数、近世の井戸1基、その他の土坑や溝等である。

粘土採掘坑は、南海本線吉見ノ里駅に近い北部ほど密に見られ、駅から離れるとなまらとなっているようである。旧耕作土直下から約30～40cm下層の地山（暗灰黄色粘質土層）を採取するために掘られた土坑である。なお、地山は厚さ60cm～80cmほど堆積し、その下層は黒色系粘土層となっている。深い土坑では黒色系粘土層直上まで掘られている。粘土採掘坑の平面プランは方形ないしは長方形のものが多く、壁面は垂直である。また粘土採掘後は砂で埋め戻し、耕作地に復

旧したと思われる(図8 S K01~S K26、図9 S K46~S K68)。

これらの土坑は比較的同一の規模で掘削されていることが図8、図9より推察される。S K53がほぼ完掘状態に近く、幅1m50cm、長さ2m、深さ(地山面より)70cmほどであり2立米ほど地山の土取りをしていたと思われる。

この調査区では、古代・中世の遺構は少なかったが、粘土採掘坑の間にわずかに残る地山面より灌漑用と思われる溝を検出した。溝からは遺物は出土していないが、溝は地山面より検出されたこと、その上部に先の遺物包含層が被ることから中世以前の溝であると考えられる(図9 S D02~S D05)。

S D03は調査地の北部、府道敷東側で検出した南から北へ延びる幅70cm、深さ14cmの溝である。S K51、S K53の掘削により詳細はわからなくなっているが、S D04から分岐しているものと思われる。遺構内からは遺物は出土していない。

S D04は南から北へ延びる幅80cm、深さ15cmの溝である。S K49~S K55、S K62~S K65の掘削によりほとんどが破壊されていたため詳細はわからなくなっている。遺構内からは遺物は出土していない。

S D01は調査地の中部(図6)、府道敷西側で検出した北へ延びる幅60cm、深さ20cmの溝である。落ち込み01に合流している。遺構内からは遺物は出土していない。

S D09は調査地の中部、府道敷東側で検出した南西から北東へ延びる幅80cm、深さ20cmの溝である。遺構内から遺物は出土していない。

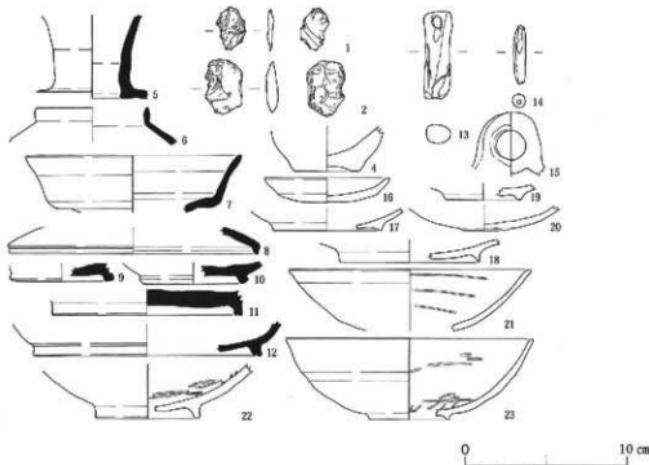


図10 07047区遺物その1

S D10はS D09と分岐する東から西へ延びる幅80cm、20cmの溝である。遺構内から遺物は出土していない。

今回の調査区で検出した溝（S D01からS D10）は、地山面から検出した溝で灰黄褐色系砂質土下の灰色系粘質土が遺構埋積土である。

調査地の南部（図7）、府道敷東側の調査区からは、土坑（SK78からSK82）、溝（SD11）、

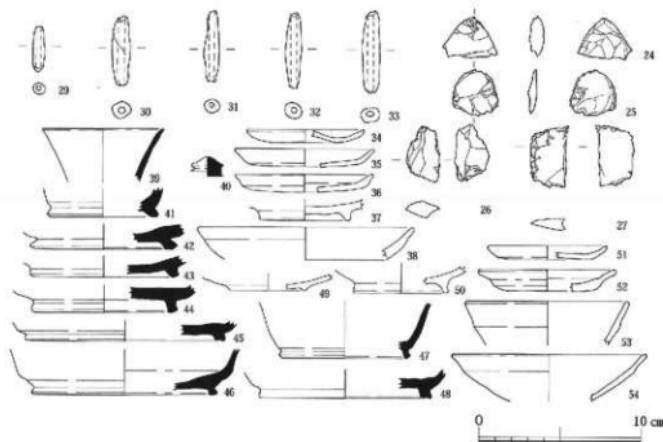


図11 07047区遺物その2

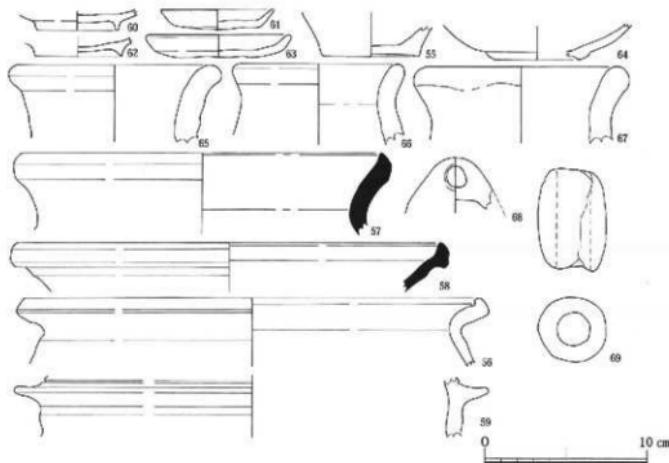


図12 07047区遺物その3

小溝（スキ溝）群を検出した。土坑は粘土探掘坑である。

07047区の出土遺物

調査区内からの遺物は石器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器等の破片が包含層より出土している。3期に分割して調査したため挿図が3つになっている。

図10の1、2はサヌカイト片、4は弥生上器表底部、5から12が須恵器、13、14が土師質土錐、15は蛸壺、16～18は土師器、19～23は瓦器片である。図示していないが写真図版6の3は北宋銭の「景德元寶」である。

図11の24～27はサヌカイト片、29～33は土師質土錐、34～38は土師器、39～48は須恵器、49～54は瓦器片である。図示していないが図版6の28は弥生土器である。

図12の55は弥生上器表の底部、56は表の口縁部、57、58は須恵器の鉢、59は羽釜、60から64は土師器、65から68は土師質の蛸壺、69は土師質の土錐である。包含層中より、石器から中世頃までの遺物が出土している。

08034区調査の結果

調査地の南部、府道敷西側で調査を平成20年度に実施した。

08034区の遺構

検出した遺構は、大溝のほか近世井戸1基、近世～近代の粘土探掘坑等である。遺物は包含層より土師器、須恵器、瓦器等の破片が出土している。

今回、調査区の南部で検出した大溝（S D19）は東西方向の流路で、推定される溝の幅は約15m、溝の南部での深さは約80cm、北部での深さは約2mを測る。溝の南部が浅く北部が深いこと

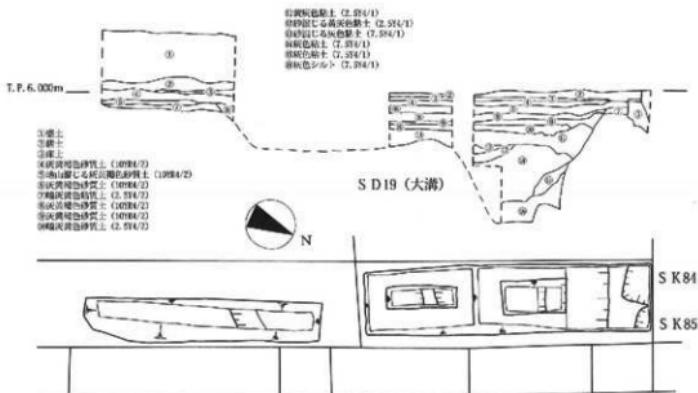


図13 08034区 S D19大溝平面図 (S=1/200)、土層断面図 (縦S=1/100、横S=1/200)

から蛇行する流路であり、今回検出した部分は北に湾曲している部分であると思われる。南側は盛り土が厚く、崩落したため土層断面を記録することができなかった部分がある。溝の埋土には灰色系の粘土が堆積し、砂層の堆積はほとんどみられなかったことから、一時的に流路が蛇行したのち上流部で流路が変わり取り残されて徐々に埋まつたものと考えられる。最終的に埋没した時期は不明であるが、灰色粘土中より瓦器片が出土していることから中世の段階ではまだ完全に埋没していなかったと思われる。

S K84、S K85は調査地北部で検出した土坑と同じ粘土探掘坑である。

08034区の出土遺物

図15の71はサヌカイト片、72は土師質土錘、73は須恵器鉢、74は土師器皿、75、76は瓦器、77は陶器の鉢である。すべて包含層より出土している。

09026区調査の結果

調査地の中央部、府道敷東側を平成21年度に調査した。

09026区の遺構

調査区より検出した遺構は土坑、溝、落込み、小溝（スキ溝）群である。

S K86は調査区の北部で検出した土坑である。規模は不明であるが深さは検出部の最深部で60cmを測る。灰色系粘質土が堆

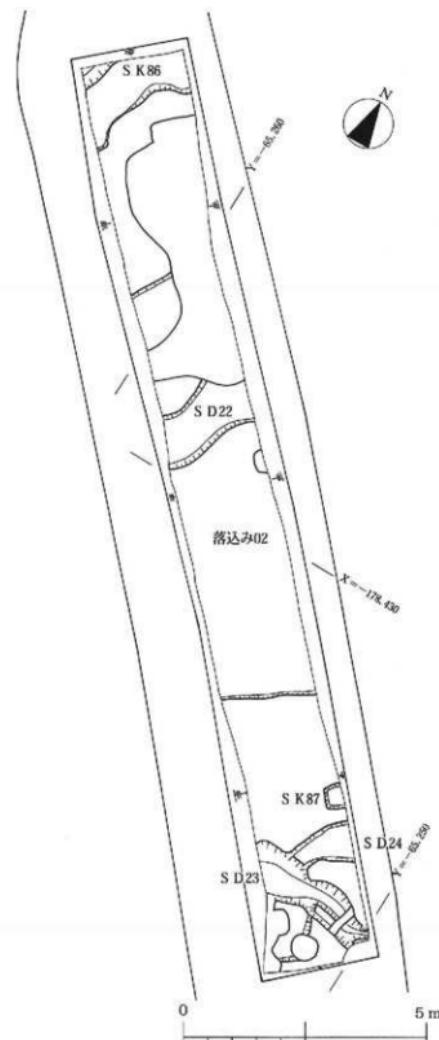


図14 09026区中部府道東側遺構平面図

積していた。遺物は出土していないが、地山面から掘り込まれているので、中世以前の遺構である。西側に落ちていく部分のみ検出しただけであり溝の可能性もある。遺構内から遺物は出土していない。

S D22は調査区の北部で検出した西南から北東に延びる浅い溝である。幅1m、深さ10cmを測る。落込み02内で検出した。落込みは深さ5cmほどである。落込みとS D22で幅8m、2段落ちで深さ15cmの溝ということも考えられる。遺構内から遺物は出土していない。

S D23は調査区の中部で検出した幅80cm、深さ40cmを測る東から西へ延びる溝である。北東から南西に延びるS D24と合流する。検出した東側からS D24との合流部までは2段落ちとなっている。遺構内から遺物は出土していない。

S D24はS D23に合流する幅80cm、深さ15cmを測る北東から南西に延びる浅い溝である。溝内から遺物は出土していない。

09026区の出土遺物

調査区より出土した遺物は、包含層からの出土遺物である。図15の78、79はサヌカイト片、88は弥生土器、80は土師質の土錐、81は蛸壺、82は土師器皿、83から87は須恵器の杯、鉢等、89から92は瓦器である。

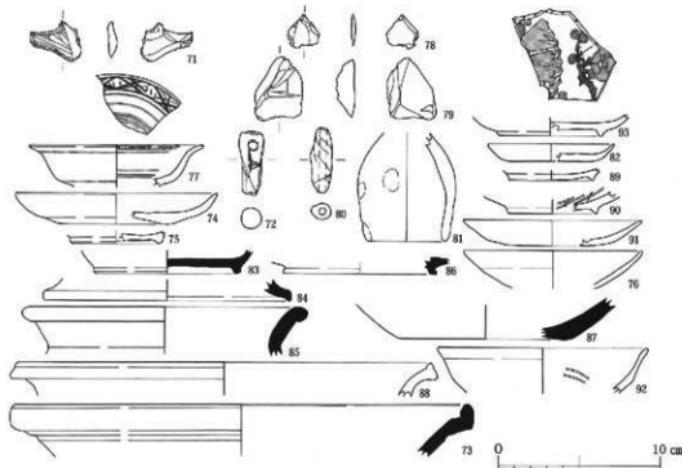


図15 08034区、09026区遺物

第4章 まとめ

田尻遺跡の弥生時代から古墳時代の溝遺構について

3カ年の今回の調査で田尻遺跡をほぼ縦断し、調査面積も大きく発掘調査を実施することになったことは田尻遺跡の遺跡としての内容を把握する大きな機会であった。検出した遺構は土坑95、溝42（スキ溝を含む）、井戸2、ピット10の遺構を検出した。遺物は弥生から近世まで幅広く包含層から出土したが、中世以前と考えられる遺構からの遺物は出土せず時代の確定にはいたらなかったが、古様相の遺構は農耕関係の溝遺構であると考えられ、古くから耕作地として拓かれていたことがうかがい知ることができた。

これまでの発掘調査で田尻遺跡内を南東から北西方向に延びている弥生時代後期から古墳時代にかけての大きな溝が報告されてきた。今回の大阪府教育委員会と田尻町教育委員会との合同発掘調査でも大きな溝が検出されると予測され、調査の結果 S D 19の大きな溝遺構が検出された。これまでの主な田尻遺跡での発掘調査の記録より溝の位置関係を整理することにする。

田尻遺跡は大阪府の南部、田尻町吉見に所在する古墳時代から中世の散布地である。同遺跡

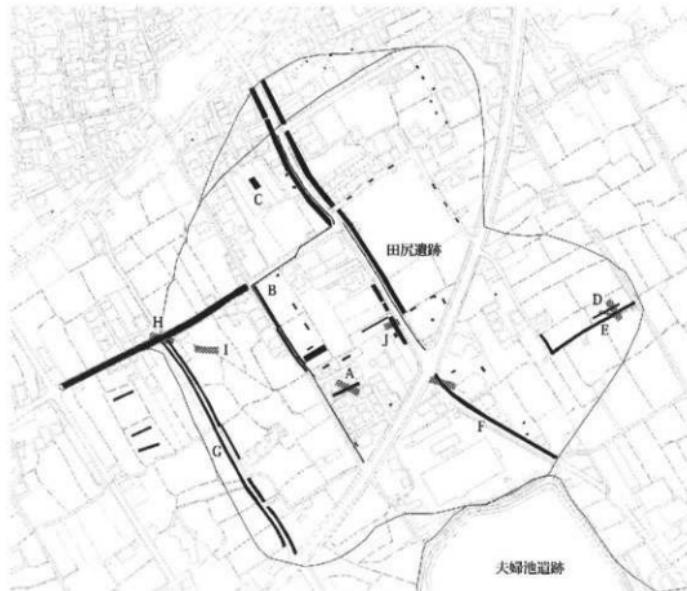


図16 田尻遺跡の調査カ所と大溝検出地点図

での発掘調査は1984年度に分譲住宅宅地造成に伴い大阪府教育委員会が実施したものが最初である。その後、1987年度に町道拡幅工事（事前着工）に伴い大阪府教育委員会が調査を実施している。1994年度に共同住宅建設に伴う調査を大阪府教育委員会より調査担当者の派遣を受けて田尻町教育委員会が調査主体者となって調査を実施した。1995年度より田尻町教育委員会が発掘調査を実施し、住宅建設に伴う遺構確認調査等で今回の調査を含めると09026区の調査で30次調査となる。

1984年度の調査地（図16 A）では、近世あるいはそれ以降に比定される土坑、井戸、溝が第1遺構面として検出されている。第2遺構面からは、土坑、ピット、溝が検出された。SK10より弥生土器甕底部が出土している。SD04は上部幅が7m、深さ1.9mの大溝で、遺物は上層から須恵器杯身、下層より弥生上器甕胴部・底部が出土している。遺物包含層中よりサヌカイト、石包丁、須恵器、土師器、瓦器等が出土している。第2遺構面のSK05、SD04、SD08が弥生時代後期、SD05から07が古墳時代後期から奈良時代に、SD10から12、ピットが中世に比定されている。（『大阪府文化財調査概要 1984年度』所収「田山遺跡発掘調査概要 付章 田尻遺跡の調査」1985.3 大阪府教育委員会）

1987年度の調査地（図16 B）では、土坑、小溝群が検出されている。土坑は近世以降、小溝群は中世と比定されている。遺物は須恵器、土師器、瓦器等が出土している。また、工事により破壊されてしまった部分の断面観察により土坑が16基されている。1984年度調査の弥生時代後期から古墳時代後期の遺構は検出していない。（『昭和62年度 田尻遺跡・船岡山遺跡発掘調査概要』1988.3 大阪府教育委員会）

1994年度の調査地（図16 C）では、土坑、溝、ピットが検出されている。時期は不明。遺物は包含層より須恵器、土師器、瓦片等が出土している。（『田尻町遺跡発掘調査概要』1994.7 田尻町教育委員会）

この後、1995年より田尻町教育委員会が調査を実施している。町実施分の調査は未報告のもののが多数あるが、顕著な遺構を検出した調査について記す。

2001年度に町道改修工事・清掃作業事務所建設に伴い遺跡範囲外で試掘調査（図16 D）を実施した結果、溝・ピット・土坑を検出した。溝①は幅80cm、深さ20cm、南東から北西方向に延びる溝である。溝から遺物は出土していない。溝③は幅3m70cm、深さ90cm、南東から北西方向に延びる溝である。溝からは弥生土器甕底部、胴部、口縁部が出土している。（『田尻町内遺跡群発掘調査概要3』2002.3 田尻町教育委員会）

同年内に本調査（図16 E）を実施し、試掘で検出した溝①、③を検出したほか土坑、溝、近世の井戸を検出している。検出した溝は南東から北西方向、あるいは南西から北東方向へ延びている。本調査で検出した試掘調査の溝③の延長からは、下層部から弥生土器の甕、高杯が出土している。

2001年度に下水道管理設に伴う調査（図16 F）では、調査地の北部で大溝と思われる遺構を

検出している。調査掘削幅が1m前後と狭いため溝の全体像は不明であるが、流路の方向は南東から北東に延びていると推定される。溝の上層部より土師器高杯の脚部、下層部より弥生土器の甕が出土している。弥生時代後期から古墳時代の大溝に比定され、1984年のSD04と同様な大溝の可能性が高い。

1998年度に町道拡幅に伴う調査（図16 G）では、調査地の北部で古墳時代頃までの溝や時期不明の土坑を検出している。

2003年度の下水道管渠築造工事に伴う調査（図16 H）では、調査地の中央部で上層部より古墳時代の須恵器や土師器を、下層から弥生時代の農具の柄と思われる木製品が出土した南東から北西に延びる溝を検出している。

2005年度の農業用水路の改修工事に伴う工事立会（図16 I）では、予想以上に地山面が浅く、遺構面直上で古墳時代の須恵器（蓋杯、高杯等）が数多く出土し、溝の存在を確認している。

そして今回の発掘調査（図16 J）で検出したSD19である。

他にも多数の小規模な試掘調査を実施しているが、顕著な遺構は検出されていない。以上が、主な田尻遺跡での調査の履歴である。

図16の各調査地点に網点でおおよその大溝の流路方向を示している。これを見ると流路はある程度蛇行しているものとしてF・Aで検出した大溝、G・I・Hの調査で検出した大溝、D・Eの調査で検出した大溝とJで検出した大溝とに区分できるよう思われる。I・G・Hは同一の大溝であると考えられIが上流、Hがその下流にあたる。さらにその上流は夫婦池である。夫婦池は元々そこに流れていた川をせき止めて造られた溜め池（築造年代は不詳）であり、その痕跡が現在の農業用水路であり調査地I・Hの溝と重なっている。F・AについてはI・G・Hと同一の大溝の上流、下流とも考えられなくはないが、地図を分析する限りにおいては、夫婦池の東側を通っていた別の流路の下流ではないかと考えられる。いずれにしても、田尻遺跡内を弥生時代から古墳時代の大きな溝が幾筋か通っている事は確かである。これらの大溝が検出された付近に弥生時代から古墳時代の集落が存在するのか、これらの上流部に集落が存在するのか、今後の付近での調査が進展し明らかになることを期待する。

図 版



07047 区北部（府道敷西側）土坑・井戸（北側から）



07047 区北部（府道敷西側）井戸断面（東側から）



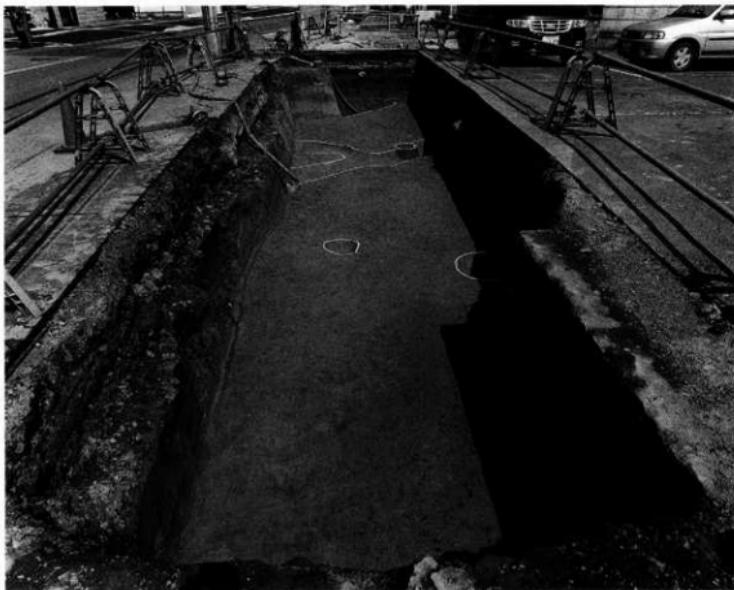
07047 区北部（府道敷西側）土坑（南側から）



07047 区北部（府道敷東側）土坑・溝（南側から）



07047 区中部（府道敷西側）溝



07047 区中部（府道敷東側）土坑・溝



08034 区中部（府道敷西侧）大溝（北側から）



08034 区中部（府道敷西侧）大溝（東側から）



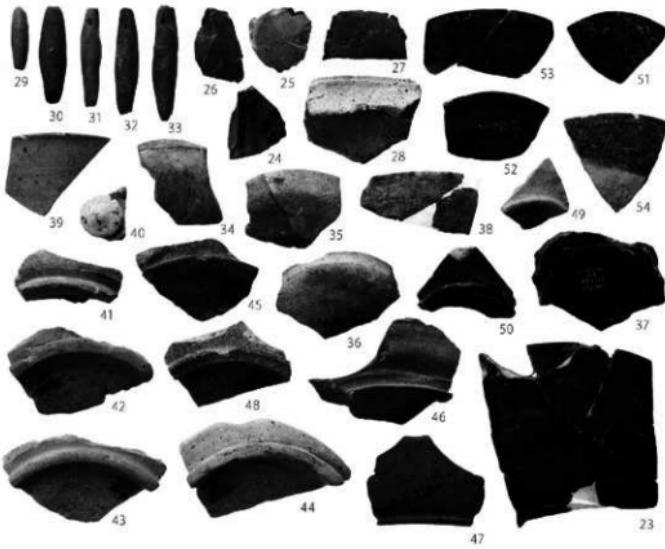
09026 区中部（府道敷東側）スキ溝（南側から）



09026 区中部（府道敷東側）溝（南側から）

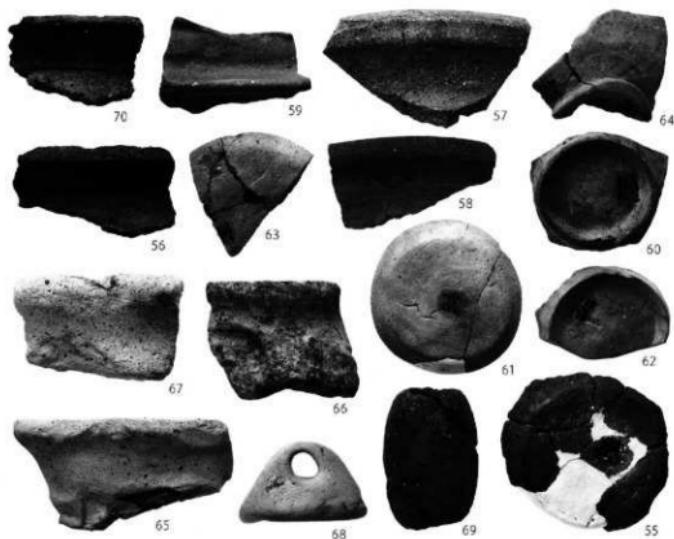


07047 区出土遺物その1

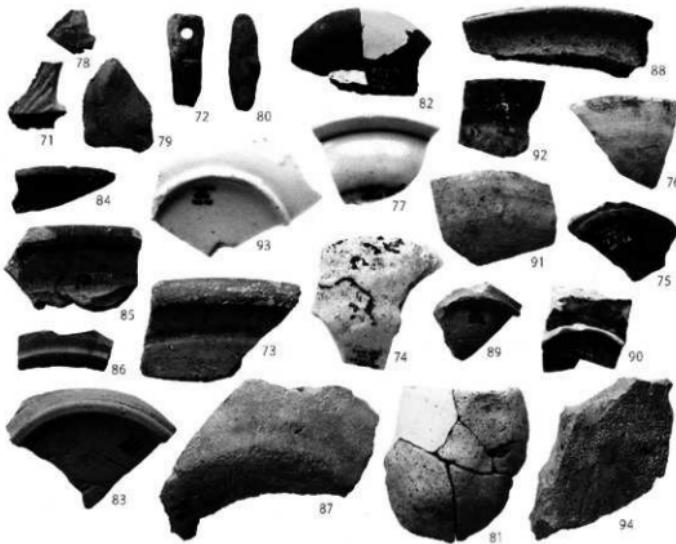


07047 区出土遺物その2

図版7 平成19・20・21年度遺物



07047区出土遺物その3



08034区・09026区出土遺物

図版8 平成19・20・21年度遺物



石器・銭（オモテ）



石器・銭（ウラ）

報告書抄録

ふりがな	たじりいせき
書名	田尻遺跡
副書名	一般府道新家田尻線歩道設置工事に伴う発掘調査
卷次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2009-10
編著者名	三木 弘 中野 篤史、野口 礼
編集機関	大阪府教育委員会文化財保護課 田尻町教育委員会
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 ^{TEL 06-6941-0351(代)} 〒598-0091 大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺883-1 ^{TEL 072-466-5022}
発行年月日	2010年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド		北 緯 ° ′ ″	東 經 ° ′ ″	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たじりいせき 田尻遺跡	たじりちょうよしみ 田尻町吉見	27362	1	34° 38' 958"	135° 29' 12"	2007年9月 ～ 2010年2月	1,533	一般府道新家田尻線歩道設置工事
所収遺跡名		種別		主な時代		主な遺構		主な遺物
田尻遺跡	散布地	古墳～近世		溝、流路、井戸、 土坑		弥生土器、土 師器、須恵 器、瓦器、陶 器、磁器		古墳時代～中世の 溝、近世の井戸、 近世～近代の粘土 採掘坑など

要約	平成19年度から平成21年度の3カ年度にわたり1,533m ² を調査した。発掘調査は歩道設置部分の狭小な範囲であるが、総延長300m以上を測り、しかも遺跡を縦断するように位置しているため、遺跡状況をさらに明確にすすことができた。
	発見遺構は、古墳時代から中世の溝や流路、近世の井戸、土坑などであった。 出土遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器などであり、弥生時代から近世にまで及んでいる。

大阪府埋蔵文化財調査報告2009-10

田尻遺跡

—一般府新家田尻線歩道設置工事に伴う発掘調査—

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06-6941-0351（代表）

田尻町教育委員会

〒598-0091 泉南郡田尻町大字嘉祥寺883-1

TEL 072-466-5022

発行日 平成22年3月31日

印刷 株式会社中島弘文堂印刷所

〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号

